

仙台陣屋かわら版

第六十二号

(平成二十二年五月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp
〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-85-2666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

資料館の新職員着任挨拶！

皆さん、はじめまして、四月から資料館に勤めることになりました干場崇弘（ほしば たかひろ）です。「干場」ではないので、あしからず。

私、生まれも育ちも葛飾柴又…ではなく、お隣の苫小牧市です。白老町には、昔から足を運ぶ機会も多くありましたので馴染みがありました。この度資料館に勤めることができ、嬉しい限りです。

三月に退職した坂本恭啓学芸員と同じく、苫小牧駒澤大学を卒業、坂本学芸員は六期生、私は九期生です。学生の頃から同氏にはいろいろとお世話になっており、後任として、また後輩として、恥ずかしくないよう努めていきたいと思えます。

大学では、狼のイメージの受容と物語、特に『グリム童話』との関連性を研究していました。北海道にもかつてエゾオオカミが棲んでおり、今のところ資料はないのですが、陣屋と狼との関わりについて掘り下げていくことができればと考えています。

町内の皆さんにはまだお会いする機会も少なく、顔を一刻も早く覚えていただけるよう、頑張りたい

のですが、私の特徴としては、今までペーパー

ドライバーでしたので、車の運転がとても下手なところ。可能な限り、運転される方は煽ったりせず、天災でも思われ、通り過ぎるのを待っていていただければ幸いです。また、あらゆる意味でまだまだ勉強不足ですので、皆さんと接することにより、多くのことを学ばせていただきたいと思っております。ですので、多くの方々に来ていただけるよう、資料館を盛り立てていきたいです。

最後に、右も左もわからない（何もわからない）



〈ニューフェイス（新顔）の

干場です。よろしくお願いたします〉

「仙台藩白老元陣屋の二十五周年」展が閉幕しました。「ご協力、ありがとうございました」

四月九日（日）を持ちまして、「仙台藩白老元陣屋の二十五年展」が閉幕となりました。一つの節目を迎え、上記のように資料館にも変化がありました。さらなる躍進を期待する声にこたえるためにも、これまでに負けないよう（寄り道も加えながら）奔走していきます。

さて、期間中にはこの企画展がNHKのラジオ放送で取上げられるなど、少なからず注目をいただいたようです。もっとも、7時からという早朝の時間帯だったため、とれだけ耳にされた方がいらっしまったのか確信を持っていないのが心残りです。しかし、町内の方からは若干名、「聞いてたよ」と声を掛けていただけましたので、眠い目を擦りながら取材に応じた甲斐もあったのではないかと思います。また、放送の効果かどうかは判然としませんが、期間中、町外からも二百二十五名もの方にご来館いただきました。お越し下さいました方々をはじめ、数々のご協力を賜りました皆様に、「この場を借りて厚く御礼申し上げます。」

陣屋資料館友の会の活動がはじまりました

四月二十九日から、仙台藩白老元陣屋資料館友の会の平成二十二年度の解説活動が始まりました。今年も土・日・祝祭日を中心に、来館者の印象に残るナイスなご案内をさせていただきます！

今年度活動するにあたり、友の会メンバー数名へ目標や抱負を語ってもらいました。

■高橋淳一氏・陣屋を訪れる方々の思いや願いに根差した触れ合いの中から、色々なことを共に学んでいきたいと思えます。

■赤崎寿子氏・最近トルコを旅行してきました。世界に発信する国際都市を見習い、友の会も大きな夢を持って、人と文化が融合する素敵な魅力をもつこのまちの陣屋を日本の遺産に届くよう頑張りたいです。

■潤潟洋子氏・今年もまた、多くのお客さんとお会いできることを楽しみに一年間務めて参ります。

■平松幸子氏・来館者から学ぶことも多いので、新たな発見と出会いに向けて頑張ります。

■梶原洋子氏・陣屋構築の契機となった当時の情勢について見識を深め、みなさんに紹介していきたいです。

短刀展は五月九日まで。お見逃しなく！

平成二十二年度仙台藩白老元陣屋資料館春のテーマ展「日本刀の輝き〜短刀の魅力〜」展は、五月九日（日）までの開催となります。



困ってらっしゃる方も、普段はあまり眼にすること

に貸与いただいた

短刀など三十振を展示中。既にお越しになられた方も、或いは連休中の予定を消化し尽くして

のない日本文化の粹、伝統の技をご堪能ください。

元刀剣登録審査員の鳥羽達一郎氏並びに日本製鋼所室蘭製作所瑞泉鍛刀所刀匠堀井胤匡氏ご協力の下、洗練された技巧の美をお届けしています。

鯉のぼりも翻り、もうすぐ「端午」の節句です

鯉のぼりが屋根より高く泳げたのは、果たしていつ頃までだったのでしょうか。せめて資料館の鯉のぼりだけは、いつまでも変わらず悠々と泳がせてあげたいものです。

さて、今年も五月六日（水）までの日程で「武者人形展」を開催しています。お馴染みの金太郎人形はもちろん、三国志の登場人物であり美髯公の誉れ



も高い関羽の人形など、多種多様な五月人形が資料館のロビー狭しと揃い踏みしました。一挙に賑やかさが増したこの世界に、何を隠そう職員自身が一番驚いています。これでもう、残業で遅くなっても寂しくありませんね。

また五日には「子供の日企画」を催します。時間は十時から十二時まで。煎餅焼き体験や鎧兜の試着体験など、様々な企画を用意してお待ちしています。GW最後の日ですが、ご家族揃って遊びに来てください。しかし、史跡の桜は、残念ながら、まだ早いかもかもしれませんか…。

面白い資料を見つけちゃいました

資料館の資料を整理していた折、何とも興味深い資料を発見しました。その名も「東海道 木曾路新版振道中双六」。日本橋をスタート地点にして東海道と中山道に別れ、京都までの到着を競う昔の双六です。原版ではなく「コピー」ようですが、道中にある宿場が絵つきで紹介されており、昔の旅事情を伺える資料になっています。

因みに展示室にも双六を展示してありますが、こちらは「函館道中寿語六」といい、全くの別物です。決して珍しい資料ではなく、かの松浦武四郎が手掛けた双六も存在します。

折角ですのでこれを活かし、手軽に遊べる資料に作り直したいと考えています。崩し字を現代文に改め、図に添えられた文に関する簡単な注釈を加える予定です。ああ、それから、駒とサイコロも用意しなければなりませんね。

町内小中学校など各施設への貸し出しも考えています。完成がいつになるかは判りませんが、「遊びたい」といった声が届けられたら、きつと作業も捗る事でしょう。応援よろしく。

☆資料館は、連休中も休まず営業します。町民の方は九日（日）まで入館料無料です。

「仙台陣屋かわら版 第六十三号」平成二十二年五月号
発行日：平成二十二年四月二十日

発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者：平野・干場